

## 解説

## 金融機関が決算書で特に注目する3つのポイント【第1回】

会社にとって金融機関の信頼を得られるか否かは、融資を取り付ける際の重要なテーマです。この度、金融機関で実際に融資に携わる担当者に御協力いただき「銀行が経営者に期待する事は何か」お話を伺ってきました。それは、一言で表すなら

**「経営者自身が会社の経営資源（ヒト・モノ・カネ）を掌握しているか」ということに尽きます。**

そして、その度合いを測るものとして特に強調されていたのが次の3点です。

- 1、経営者自身が決算書を読み込み、業績を正しく理解されること  
\* 決算書の重要な数字を把握しているか
- 2、同業他社との比較検討や、市場などの外部要因を把握されること  
\* 自社の強みや将来のリスクは何か
- 3、自社の業績や同業他社比較数値の裏付けを踏まえて、今後の展望を経営者自身が説明されること  
\* 将来のビジョンを語るができるか

どれも重要な事項ですが、今回は1番目の「**経営者自身が決算書を読み込む**」に焦点を当て、**決算書の中で金融機関が特に注目する3つのポイントとその理由や打合せ時の対応などについて全3回に渡ってお伝えいたします。**

3つの  
ポイント

ポイント	返済できるだけの利益があるのか？	【キーワード：償却前利益 > 返済額】
ポイント	財務が健全か？	【キーワード：債務超過】
ポイント	在庫や売掛金が急激に増減していないか？	【キーワード：急激な増減項目】

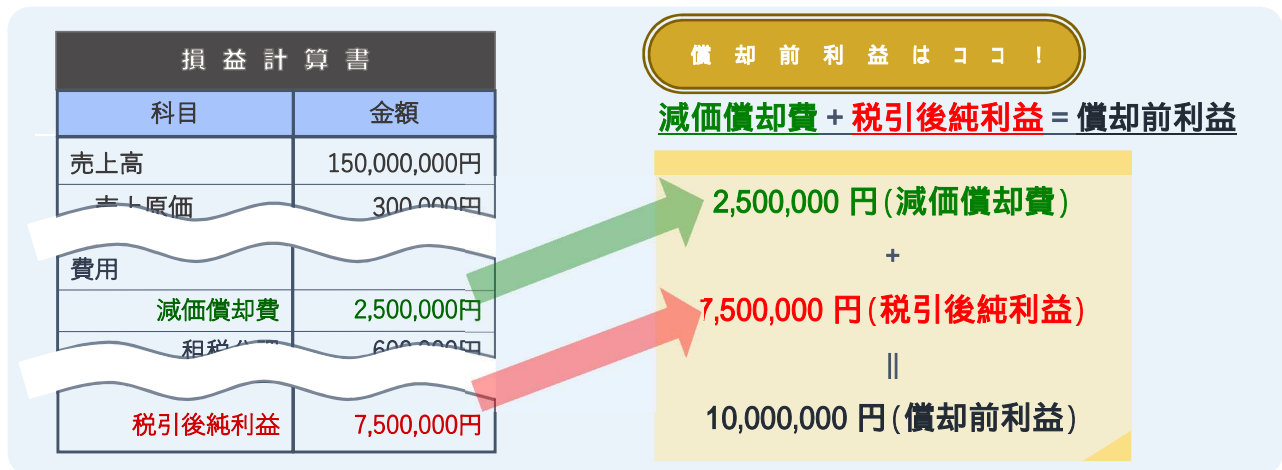
償却前利益については次頁をご参照ください。

## ポイント 返済できるだけの利益があるのか？

## ◆ キーワードは「償却前利益 &gt; 返済額」

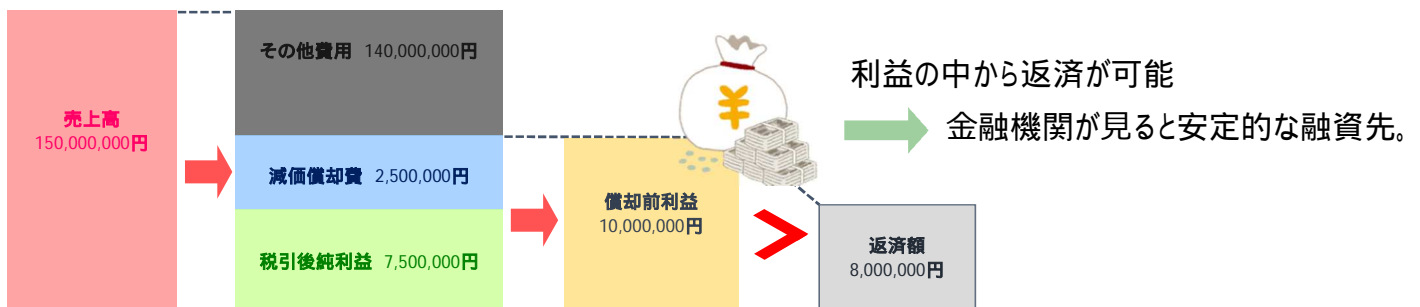
会社は、利益を出しつつ、借入金の返済をしていく必要があります。「利益 > 返済額」であれば、利益の中から返済が可能のため、その会社は安定的な融資先となります。実際には現預金支出を伴わない経費である減価償却費を足した「償却前利益」が返済額を上回っているかを重要視します。

◆ 償却前利益はココ！ 「損益計算書」に注目します

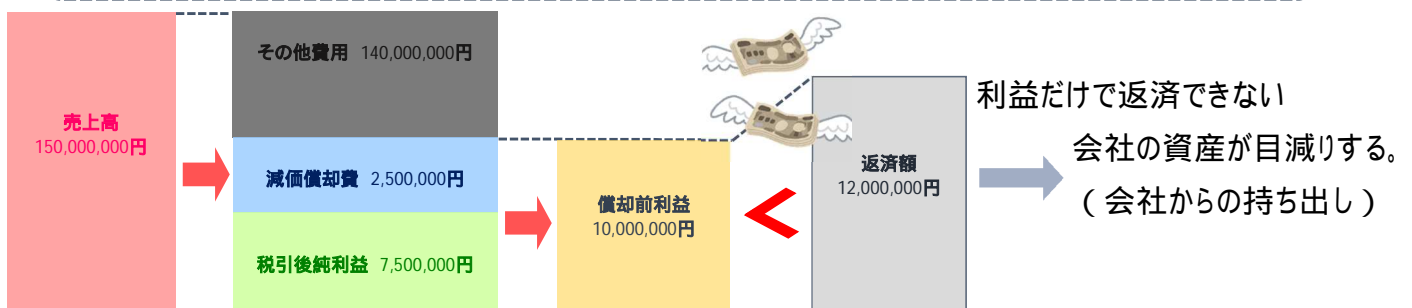


◆ 利益の中から返済が可能か？

CASE 1 償却前利益 > 返済額



CASE 2 償却前利益 < 返済額



◆ 償却前利益 < 返済額の場合

「償却前利益 < 返済額」であったとしても、金融機関に実情や今後の展望を説明することで融資先としての評価が下がるのを防止できる場合があります。

また、オーナー企業である場合は、オーナーの個人資産を加味して評価を行う場合があります。

いずれにおいても経営者自らが、現状の分析結果や今後の業績予測を金融機関担当者に説明することが効果的です。

弊所でも次のようなサービスを通じて、経営に資する情報をご提供するべくサポートを行っております。

月次監査後の各種業績報告

ローカルベンチマーク（会社の健康診断ツール）作成

予算作成支援

事業計画作成支援（早期経営改善計画など）

については、一定の要件のもと事前申請により作成費用の 2/3（上限 20 万円）が補助金の対象となる場合があります。詳細は弊社担当者にご相談ください。

このニュースレターの内容については、正確性に万全を期しておりますがその内容を保証するものではなく、これらの情報によって生じたいかなる損害についても当法人は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また、わかりやすさを優先し説明を簡略化すること、例外規定の存在、時間経過および法改正等により、当該内容が必ずしもすべての事案に適用されるものではないことを、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。